

# 第XVI期うきたむ学講座運営委員会次第

令和6年11月10日  
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

1. 開会のあいさつ(考古資料館館長)
2. 運営委員長あいさつ(吉田委員長)
3. 確 認
  - (1)うきたむ学講座実行委員会規約の確認
  - (2)うきたむ学講座実行委員名簿の確認
  - (3)その他
4. 協 議
  - (1)第XVI期うきたむ学講座について
    - ①第XVI期うきたむ学講座実施計画(案)
    - ②第XVI期うきたむ学講座予算(案)
    - ③その他
  - (2)その他  
総括実行委員会の日程について
5. 閉会のあいさつ

## 運営委員会

委員長 吉田 勲(○)・副委員長 岩崎義信(○)・高梨善三郎(×)  
委 員 菊地政信(○)・角屋由美子(○)・佐藤庄一(○)・島津憲一(×)・小林貴宏(×)・島崎正弘(×)・  
秦昭繁(○)  
渋谷孝雄(事務局)

10名中4名出席予定



## うきたむ学講座実行委員会規約

### [趣旨]

第1条 置賜地方の歴史解明および歴史理解の普及を広い視野から幅広く推進するため、置賜地方の歴史等関係者および団体が相集い研修し合うことを目的とする。

### [名称]

第2条 この会の名称を「うきたむ学講座実行委員会」と称する。

### [組織]

第3条 趣旨に賛同し、講座を支える意思を有する実行委員で組織する。

### [活動]

第4条 趣旨を達成するための「うきたむ学講座」を山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館と共催し、かつ必要な活動を行う。

### [実行委員]

第5条 実行委員は、本会の活動を代表者を通じて運営するとともに、会の活動に参加し、一般市民の参加を呼びかける。

### [役員]

第6条 本会に次の役員をおく。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 2名
- (3) 運営委員 若干名
- (4) 事務局員 若干名

### [機関]

第7条 本会の運営のため、次の機関を置く。

- (1) 実行委員会(全体会) 定例会を年1回開き、方針および活動計画を決定する。
- (2) 運営委員会(役員会) 正副実行委員長・運営委員・事務局員をもって構成し、実行委員会で定められた事項に基づき会の運営を行う。
- (3) 事務局会 正副実行委員長の指示に基づき実行委員会および役員会に関する事務等の協議を行う。

### [会計]

第8条 本会の会計は、うきたむ学講座受講費その他の収入をもって充てる。  
受講費は当分の間600円とする。

### [事務局]

第9条 本会の事務局は、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館に置く。

うきたむ学講座実行委員名簿

No.	氏名	役職	所属等
1	青木 慶一		長井古文書研究会事務局
2	井田 秀和		元高島町教育委員会
3	岩崎 義信	副委員長	長井市観光文化交流課市史編纂専門員
4	大内 紀子		白鷹町教育委員会
5	蛭原 一平		小国町教育委員会
6	海藤 元		長井市観光文化交流課
7	角田 朋行		南陽市教育委員会社会教育課
8	菊地政信	運営委員	元米沢市教育委員会職員
9	桐澤 民雄		うきたむ考古の会会員
10	小林 貴宏	運営委員	高島町教育委員会社会教育課 うきたむ考古の会幹事
11	佐藤 庄一	運営委員	山形考古学会顧問
12	佐藤 公保		米沢市教育委員会社会教育文化課
13	島崎 正弘	運営委員	高島町文化財保護会顧問
14	島津 憲一	運営委員	高島町文化財保護会会長
15	角屋 由美子	運営委員	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長
16	清野 春樹		置賜民俗学会会員
17	高梨 善三郎	副委員長	うきたむ考古の会副会長
18	高橋 拓		地域文化資源活用工房ロフト 代表
19	高橋 信博		山形県農山漁村地域づくりプランナー
20	手塚 孝		元米沢市教育委員会 まんぎり会会長
21	二宮 美夫		元高島町文化財保護会会長
22	秦 昭繁	運営委員	考古学研究者
23	益田 則雄		小国町文化財調査員
24	宮原 博通		高島町地域経済活性化戦略会議アドバイザー
25	吉田 歆	委員長	米沢史学会事務局長 米沢女子短期大学教授
26	渡部 眞治		徳太郎文庫長
27	守谷 英一		置賜民俗学会会長
28	月山 隆弘		川西町文化財保護協会副会長
	渋谷 孝雄	事務局	考古資料館館長
			(委員名は五十音順)

## 第15期うきたむ学講座総括実行委員会開催の結果報告

令和5年12月24日に開催した上記会議では運営委員会で決定した「会議資料」に基づき、委員長及び事務局からの開催案の説明がなされ、一部を訂正した上で承認されました。

### 今後の会の持ち方

- 1 しばらくは年2回の開催でいいのではないか。
- 2 コロナ禍で打撃を受けたが、各地元では地域興しをしたいという方が多い。
- 3 地域資源の再利用について希求されている方も少なくない。
- 4 置賜の高校生の活動も活発化しているので、この辺に焦点を当ててるのもいいのでは。
- 5 置賜ならではの「かてもの」のお話を聞きたい。
- 6 食文化について民俗学立場で考えることはテーマになりうる。
- 7 近年、クマ、イノシシなどが話題になることが多い。動物の生態についてのお話も聞いてみたい。

### 実行委員の選定

本日の委員会には白鷹町、飯豊町、川西町の委員の出席がなかった。これらの町で新たな委員を選定する必要があると思うが、いかがか。

白鷹町は承諾が得られれば石井さんか、飯豊町は難しいか。川西町もすぐに思い浮かぶ人はいないか。

今後、事務局や委員の皆さまの働きかけが欲しい。

会議資料に添付した「案内チラシ」は年明けに実行委員の皆さまに配布すると共に、各市町担当課にまとめて送付する。

※南陽・小国はPDFでメール送信でいいとのこと。

## 第X□期うきたむ学講座総括実行委員会開催のご案内

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
さて、標記の委員会を下記の日程で開催致しますのでご案内致します。

令和6年10月16日

うきたむ学講座実行委員長 吉田 敏

### 記

- 1、日 時 令和6年11月10日（日）午前10時より
- 2、場 所 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室
- 3、内 容 第X□期うきたむ学講座について

11月10日(日)に運営委員会を開催し、令和6年度に開催する「うきたむ学講座」の実施計画や、予算案について協議しました。

その結果、総括実行委員会に提案する実施計画をつぎのとおりとすることを決定しました。

令和6年度の講座開催期日を令和6年2月 日(日)、と3月 日(日)の2回とする。

講座1回目のテーマを として□「 」講師 氏□「 」(講師 氏)の2つの講義をお聞きする。講座2回目のテーマを「 」とし①「 」(講師 氏)□「 」(講師 氏)の2つの講義をお聞きする。

受講料と負担金(うきたむ風土記の丘考古資料館自主事業委員会)で講座を運営する。

総括実行委員会では以上の件について協議していただきます。また、次年度以降の講座の持ち方についてご意見を頂きたいと考えています。

ご出席・ご欠席の別を11月30日（土）までFAXまたはe-mailで返信願います。

e-mail アドレス [ukitamugaku@ukitamu.pupu.jp](mailto:ukitamugaku@ukitamu.pupu.jp)

## 第 XVI期 う き た む 学 講 座 予 算(案)

2024.11.10

	費 目	予 算 額	前 回 決 算 額	摘 要
収 入	負担金	48,000	49,845	考古資料館自主事業委員会
	受講料収入	30,000	9,600	@600×50名
	資料頒布	200	400	
	計	78,200	59,845	
支 出	謝 金	48,000	48,000	講師謝金 4名分(2回開催)
	旅 費	10,000	7,000	講師交通費
	賃借料	7,500	7,500	施設使用料(@150×50名)
	通信運搬費	5,000	2,646	切手・メール便・振込手数料
	消耗品費	7,700	0	
	計	78,200	65,146	

\*内訳

- ①講師謝金 @12,000円×4 .....48,000円
- ②講師交通費 @4,500円×1+@3,200円×1+@3,000円×2.....13,700円

交通費 支給基準(実際は発地・着地間の距離×2×37円で計算)

天童.....講師4,500円  
 山形・上山.....講師3,200円  
 長井・白鷹・小国.....講師3,000円  
 米沢・川西.....講師2,000円  
 南陽・高畠.....講師1,000円

(運営委員・実行委員については平成23年5月14日総括実行委員会の決議により支給しない事となっている)

- ③資料代 受講しないで資料のみの場合:資料代を受講料と同額徴収する。  
 ※講師1名分200円に変更してはかがか。